



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「主イエス・キリストを身にまといなさい」

聖書(ローマ書13章14節)

牧師 河合裕志

アウグスチヌス(紀元354~430)

は最大の教会教父と言われた人。その神学思想はその後、多くの人々に多大な影響を与えた。しかし彼は初めから立派だったのではない。若い頃はかなり無軌道に突っ走った。18歳で一婦人と同棲し一子を得ている。母モニカには「涙の子」だった。

そんな彼が回心に導かれる時が来る。それは彼が家の中にいた時に外から聞こえて来た子供たちの遊ぶ声だった。それはラテン語で、トレ・レゲ トレ・レゲ(取りて読め)と聞こえて来た。ハッとと思って聖書を取り上げて開いたところがローマ書13章13節、14節の言葉。

その全文は次のよう。「日中を歩むように、品位をもって歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、淫乱と好色、争いとねたみを捨て、主イエス・キリストを身にまといなさい。欲望を満足させようとして、肉に心を用いてはなりません」。

このパウロの言葉は他にも多くの人々を回心に導いて来たかも。今読んでも何か感じるものが。

a. 品位をもって歩む…私は品位に欠けるのでこの言葉は挑戦的。身だしなみ、言葉使い、態度ふるまいがもう少し品がよくなるように。相手、周囲の人を思って優しく丁寧に出来るように。あまりガツガツしな

いように。

b. 酒宴と酩酊…イエスもぶどう酒は飲んだ。だから絶対禁酒という訳ではないだろう。しかしイエスも「深酒で心が鈍くならないように」とは言っている(ルカ21・34)。飲むのであれば決して飲み過ぎないように、ということ。

c. 淫乱と好色…性的欲望が直ちに悪いというのではないけれど、これも度を越すと大変なことになる。人妻に手を出す、人の夫に手を出す、こうしたことは厳に慎まなければ。

d. 争いとねたみ…過度の利益追求は人との間、国との間の争いの元。ねたみは他人の幸運、成功をうらやむ暗い感情。「喜ぶ人と共に喜ぶ」(ローマ12・15)ことが出来る大きな心が持てたらなあ。

e. キリストを身にまとう…キリストを肌身離さずしっかりと着る。それはいつもキリストの思いをもって生きること。一体となって歩むこと。これまたそう生きることが出来たらなあ。そこに祈り。祈りつつ1歩1歩。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時~7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時